

従業者向け

児童発達支援評価表

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	22	8	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	18	11	・個別対応が必要なグループは職員数も多くなり、子どもにとっては逆にノイズの多い環境ではないかと感じることもある。次年度から少人数化することでより過ごしやすい環境作りに努めたい。 ・職員減したグループは、それ以降1人減のままだった。子どもに必要な経験を保障するには、グループの努力や工夫だけでは限界もあったのでは。全体で職員調整しているが、今後もこうした状況になった場合、どう配置していくかは課題になると思う。 一対一の子どもの増え、職員の休みが入ると常に足りない状況。囁託ではなく、書類や保育を行う正職を増やしてほしい。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	18	11	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	27	3	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	22	8	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	17	11	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25	3	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24	5	年に一度の面談や、日頃から主任や所長が様子を気にかけてくれるため、意見を伝える場が多くあり、雰囲気の良いから伝えるハードルも低いと感じる。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	24	5	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	28	2	研修が多く開催されており、勉強したい内容の研修を自由に受講することができありがたい。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	27	3	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	28	1	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	30		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	28	2	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	23	6	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	29	1	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	26	3	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	30		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	28	2	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	26	4	出勤時間やバス乗車の関係で、クラス全体で話し合う機会が少なく、当日最低限の話をして活動に入ることが多い。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	23	7	嘱託職員の勤務時間内に済むように振り返りを行っているが、時間オーバーしてしまうことがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	28	1	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	30		
関係機関や保護者との	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	29		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	26	2	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	25	3	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	27	1	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	20	5	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	26	3	
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	23	4		

連携	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	24	4	イオンに行った際、地域の他の子どもと遊具や遊び場所を共有した。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	25	1	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	23	5	ペアトレはしていない。親子保育を活用し、発達の道筋やあそびの意味をお伝えする機会があっても良いと思う。保護者学習会でも良いが、日常的に保護者にフィードバックできるよう、まずは職員自身がスキルや知識を高める機会や、すびかの保育方針を確認し合う場が必要ではないかと思う。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	27	1	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	29		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	29		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	29		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	27	1	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	29		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	28	1	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	29		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	29		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	12		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	29	1	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	29		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	30		

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	30		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	28	1	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	26	3	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	30		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	29		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	27	2	

保護者向け	児童発達支援評価表
-------	-----------

(保護者の皆さまへ)

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28	2	1	1	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	25	6	1		・大変そう ・活動によっては足りないと感じるときがある ・ごくたまに少しだけ人数が足りないのかな?と思うことがありました
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	3		3	・津波が来た時に屋上に階段だと心配です。速めに移動できるのか・・・
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30		1	1	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	31	1			・グループごとの子どもたちの特性を考えて活動も行われていると思う。
	6	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28	2		2	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	31			1	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30	1		1	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	32				
	10	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28	3		1	
	11	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	5	10	5	・特に必要は感じない(子どもの特徴から交流は難しいため) ・他園交流は「全員」は難しいイメージがあります。(特性も様々なので多動やパニックなど)
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29	1		2	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30	1		1	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25	6		1	・困ったことがあれば、その都度先生に相談したり親子保育で保護者間で相談している。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	32				・色々ご報告いただき、又、こちらの話を聞いていただけて理解できていると思う
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	32				・面談以外でもいつも相談を聞いてくださり支援して下さいます。 ・沢山助言して頂いている ・食事の対応など知れて助かっています
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	2			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	23	6	1	2	・保護者の交流会はとっても有意義だったと思います。兄弟同士の交流はなかなか難しいとは思いますが、そのような機会があれば良いだろうと思います。 ・もう少し保護者同士や兄弟同士の交流に機会があった方がよいと思います ・保護者同士の交流の機会はあるが、兄弟同士の交流は分かりません ・保護者の交流会があり、他クラスのお母さんの方と知り合えたのが嬉しかったです。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	2		3	・遅刻や期限を守らない保護者には、きびしい対応をとってもよいと思う
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	1	1	1	・4, 5月、親子保育時は先生の名前が分かるように服にテープの名札があるとうれしいです
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	5		5	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	3		1	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	29	2		1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	32				・上履きを着用することにより、避難にかかる時間が短縮されてよかったです
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	2			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	2			・子どもが怪我をした際、しっかりと対応してくださいました。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	31			1	・一度も行き渋りをしたことがないくらいすびかが大好きです。 ・おかげさまで、のびのびと過ごさせてもらっていると思います。ありがとうございます ・すびかで行った楽しかったことを、毎日話してくれます。安心して楽しく通えていると思います
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	1		1	・バスを見ると「すびかに行くぞ」とスイッチがonになります。 ・毎日笑顔で登園しニコニコで帰ってきてくれるのでとても嬉しいです。 ・土日も行きたいと言うほど、毎日楽しく通所しています
	29	事業所の支援に満足していますか。	30	2			・いつも根気強くこだわりの強い息子に大きな心で関わって頂いて感謝です。 ・先生方の努力や頑張りにとても感謝しています。 ・色々と助けて頂いて、感謝しています。子どもがのびのびと成長しているのを感じます ・とても丁寧に子どもと関わってくださり、安心して通わせることができました

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、子ども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「児童発達支援計画（個別支援計画）」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの障害の特性やその特性を踏まえた子どもへの関わり方を学ぶことにより、子どもの行動変容することを目標とします。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター すびか		
○保護者評価実施期間	令和7年2月26日 ～ 令和7年3月5日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	令和7年2月26日 ～ 令和7年3月5日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 30
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して通園できていること	毎日安心して通園していけるように、職員全員が園児の思いを受け止め、肯定的に返す考えが浸透できていること。 安全に過ごせるように、園児の特性、状況等に応じた職員体制や、緊急時を想定した対策などを全体で情報共有を行っていること。	児童発達支援センターとしての中核的役割を担い、より難しいケースの園児受入を想定して、より高い専門性を果たしていくための研修の充実等を図っていきたい。
2	保護者からの事業所への満足度の高さ	園児が楽しみに通園を重ねていることに加え、親子保育時を中心に、職員と保護者が顔を合わせ話しあいながら、子どもの共通理解を図ったり、疑問や相談に応じていく環境ができていること。	今年度は、保護者間での交流を促すための交流会や外部講師による講演の実施等も行いました。今後も保護者からの意見を聞き取りながら障がい特性の勉強会などの取り組みを実施していきたい。
3	多職種との連携を含めた発達支援の実施	宮崎市総合発達支援センター各セラピスト（作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、認定心理士）と連携しての、専門的支援計画書を基にした専門的支援の実施。	中核機能の役割を担うため、次年度より専属セラピスト所属が始まり、より深く多職種との連携を図りながらよりよい発達支援の実施と職員の専門性を高めていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援センターの役割変更に伴い、中核的機能を果たすために必要とされる、より専門性の高い支援の確保と地域支援との連携	保育園や幼稚園、各事業所では受け入れが難しいケースでの支援を想定し、子どもにとってもより分かりやすく、過ごしやすい環境面、支援面での対応を全職員ができるための方法など。	専門性の高い支援を行うための各種研修の実施や、児童発達支援計画書に基づいたPDCAサイクルができるように、各グループと児発管、専属セラピストとの連携体制を図る。地域支援チームが抱える地域支援の状況や課題の共有を図り、一緒に考えていける職員の育成。
2	南海トラフ大地震等の有事の際に、地震、津波の影響を大きく受ける地域にあり、そのための対策がこれからも必要なこと。	地震、津波対策として、年2回センター全体で訓練を行い、センター2階、屋上への垂直避難や怪我人想定時の動きなどを重ねてきている。備蓄品の見直し、発災後の薬預かり等進めているが、発災後の想定の中ですべき課題（引き渡し訓練、避難生活の動きなど）もまだある。	次年度以降の中で、発災後の課題等を整理、改善していきながら、引き渡し訓練の実施など保護者にも周知できるよう努めていきたい。
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		児童発達支援センター すひか				公表日	令和7年 3月 31日		利用児童数	40名	回収数	32名
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応			
							環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28	2	1
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	25	6	1		大変そう 活動によっては足りないと感じるときがある ごくたまに少しだけ人数が足りないのかな?と思うことが ありました	職員の年休、急な休みが重なったときを中心 に体制が整わない状況がありました。感染症 流行時などの状況でも、すひか全体で連携し 安全に支援できるよう努めています。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている と思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー 化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	3		3						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思 いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思 いますか。	30		1	1						
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支 援が受けられていると思いますか。	31	1			グループごとの子どもたちの特性を考慮して活動も行わ れていると思う。					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	28	2		2						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に 分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されている と思いますか。	31			1						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す 支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、 具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30	1		1						
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	32									
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	28	3		1						
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこども と活動する機会がありますか。	12	5	10	5	特に必要は感じない(子どもの特徴から交流は難しいため) 他園交流は「全員」は難しいイメージがあります。(特性も 様々なので多動やパニックなど)	今年度、小戸保育所、青島保育所との交流保 育を行いました。普段と違う場所や相手との 関わりの中で緊張もありましたが、2回目にな るとより交流を図れる姿もありました。 交流保育だけでなく、地域の公共機関など外 出の機会の中で、子どもたちの経験を広げて いくよう努めていきます。				
保護者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	29	1		2						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされました か。	30	1		1						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	25	6		1	困ったことがあれば、その都度先生に相談したり親子保育で 保護者間で相談している。	親子保育時に職員と話す機会や、保護者や家 族が参加できる研修の案内等を行いました。 また、今年度は父母の会役員主催で防災講演 も行いました。父母の会と意見交換しながら 保護者に有益な研修等の機会を作れるよう 努めていきます。				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態 について共通理解ができていると思いますか。	32				色々とご報告いただき、又、こちらの話を聞いていただいて 理解できていると思う					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	32				面談以外でもいつも相談を聞いてくださり支援して下さい ています。 沢山助言して頂いている 食事の対応など知れて助かっています					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	2								

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	23	6	1	2	保護者の交流会はとって有意義だったと思います。兄弟同士の交流はなかなか難しいとは思いますが、そのような機会があれば良いだろうと思います。 もう少し保護者同士や兄弟同士の交流に機会があった方がよいと思います 保護者同士の交流の機会はあるが、兄弟同士の交流は分かりません 保護者の交流会があり、他クラスのお母さん方と知り合えたのが嬉しかったです。	今年度、保護者の交流会と給食試食会を合わせて行いました。普段やりとりする機会の少ない保護者ともゆっくりお話しできる機会となり、来年度も引き続き開催を予定しています。 きょうだい児は行事（夏祭り、遠足等）を中心に参加する機会を作っていました。保護者の意見を聞きながらきょうだい同士の交流の場等も検討していきたいと思います。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	2		3	・遅刻や期限を守らない保護者には、きびしい対応をとってもよいと思う	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	1	1	1	・4、5月、親子保育時は先生の名前が分かるように服にテープの名札があるとうれしいです	職員の名前等も分かりやすいような工夫も検討していきたいと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	22	5		5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	3		1		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	29	2		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	32				上履きを着用することにより、避難にかかる時間が短縮されてよかったです 津波が来た時に屋上に階段だと心配です。速めに移動できるのか・・・	非常災害時に備え、毎月の緊急時対応訓練や年4回のセンター全体訓練（地震、津波、火災）を行いました。センター2階や屋上への迅速な避難や、あらゆる状況を想定した訓練を行い有事の際に避難できるように努めて参ります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	2				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	2			・こどもが怪我をした際、しっかりと対応してくださいました。	
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	31			1	一度も行き渋りをしたことがないくらい喜びが大好きです。 おかげさまで、のびのびと過ごさせてもらっていると思います。 ありがとうございます すてかで行った楽しかったことを、毎日話してくれます。安心して楽しく通えていると思います	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	30	1		1	バスを見ると「すびかに行くぞ」とスイッチがonになります。 毎日笑顔で登園しニコニコ帰ってきてくれるのでとても嬉しいです。 土日も行きたいと言うほど、毎日楽しく通所しています	貴重な意見を頂きありがとうございました。 保護者の皆様の意見を参考に、今後の保育や運営の向上に努めて参ります。子どもたちが、安心して通園し自分の思いをありのままに伝えながら、様々な経験を重ねていけるよう、支援していきたいと思います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	30	2			いつも根気強くこだわりの強い息子に大きな心で関わって頂いて感謝です。 先生方の努力や頑張りにとっても感謝しています。 色々と助けて頂いて、感謝しています。こどもがのびのびと成長しているのを感じます とても丁寧に子どもと関わってくださり、安心して通わせることができました	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター すびか				公表日	令和7年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	22	8	計算上は基準をクリアしているが、活動内容によって狭い場合があるため、遊戯室やグループの部屋を入れ替えるなどで工夫している。	静養室が1つしかなく、感染症別に対応が難しい狭く、形的に使づらい保育室があると感じています。知能の子でも動く子どもたちが多い時は、より少人数の方が良かったように感じた。現在の子ども人数に対しては狭いと感じる。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	18	11	1グループ園児5～9名。職員4名～7名で対応。子どもの状態や活動内容等、職員の年休、急な休みに対応するため、主任が全体調整しながら対応している。次年度から少人数化することでより過ごしやすい環境作りに努めたい。	・個別対応が必要なグループは職員数も多くなり、子どもにとっては逆にノイズの多い環境ではないかと感じることもある。 ・職員減したグループは、それ以降1人減のままだった。子どもに必要な経験を保障するには、グループの努力や工夫だけでは限界もあったのでは。全体で職員調整しているが、今後もこうした状況になった場合、どう配置していくかは課題になると思う。1対1の子どもの増加、職員の休みが入ると常に足りない状況。嘱託ではなく、書類や保育を行う正職を増やしてほしい。 1対1でつきたい子もいるが、職員配置の関係でつけないのが現状である。 状況によって、人手が不足する時間やクラスが出てくるが、他クラスからのヘルプ等に対応している 子どもたちを園全体でどう見ているのか、グループ単位で動くのではなく、園全体で取り組むことができればよかったように感じる。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	18	11		誰にでも分かりやすい構造化された環境ではないと感じます。職員単位やグループ単位での構造化の整備には限界があると思うので、『構造化チーム』みたいなものを作ってすびか全体として取り組んでいけたら良いと思います。(結果として委員会が増えて業務が増えることが懸念されますが…) 活動の動線や場所など、工夫できることはないか、考えたい。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	27	3		概ね清潔な空間だと思いますが、室内靴が導入されて「清潔・不潔」の線引きが曖昧になっていると思います。4月までに大まかなルールを発信できるといいなと思います。清潔ではあるが、心地良く子ども達に合わせた空間とまでは言えない。まずこの施設の構造自体が複雑である。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	22	8	子どもが安心して過ごせるように空間の使い方や、保育室の使い分けを工夫しているグループがいると思います。仕切りなどを活用して、個別の場所を複数作れる環境を考えていきたい。	空いている部屋は、他クラスが活動で使用することもあるため、クールダウンできる部屋がもう1部屋あると良い。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	17	11		・児発計画書作成後の、見立てを受けた上での実行を常に意識して支援することが課題。 「広く職員が参画」というのが嘱託職員も含めると難しい現状があると思う。 業務改善にあたっては、現在リーダーのみが集まっているため、広く参加しているとは言えない。また、従来のやり方、内容が根強く残っている部分があるためもっと改善が必要だと思う。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25	3	毎年事業所評価を実施。意見を踏まえて改善に努めている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24	5	年に一度の面談や、日頃から主任や所長が様子を気にかけてくれるため、意見を伝える場が多くあり、雰囲気の良いから伝えるハードルも低いと感じる。	幅広い職員からの意見が出やすい環境作りが必要。 職員の意見を把握する機会を設けたと思っているが、だれもが意見を発信しやすい雰囲気であったか・スピード感を持って改善につなげられたかという点に関しては達成できていないと感じる。引き続き第4水曜日や時間の使い方、意見提案のやり方を工夫していきたい。 昨年度は業務の現状を把握し、改善する動きが見られたが、今年度は現状の把握が園全体でできていなかったように感じる。業務改善に取り組んで、どうだったかを前かが終わった時点でして良かったように感じた。		
9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	24	5	第三者評価研修を受けたので、それを今後の外部評価の取り組み方に活かしたいと思う。同事業所の取り組み方を知る機会も作っていききたいと思う。	第三者による外部評価の内容を職員に周知してもらえるとよい。			

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	28	2	研修が多く開催されており、勉強したい内容の研修を自由に受講することができありがたい。 専門的な研修を、業務の一環として受けられる事が習慣化していくといい。 第4水曜日の活用の仕方は、まだまだ検討、改善が必要と思われるが、まずはそれらの機会が確実に確保される状況になったことは大きな進歩だと思う。 色々な研修に参加することができ、資質の向上につながるができる。	職員体制を考えると難しいかもしれないが、もう少し研修に参加できるとありがたい。 児発管や相談支援の研修（更新含む）を自分の望むタイミングで受けられるのもっと良かったのか？社協以外の研修にももっと参加する機会があれば、新人さんの保育観なども育てていくように感じた。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	27	3	今年度初めて作成。これまで支援内容を言語化していない部分が多くあったが、現時点から今後に向けて支援内容のベースとなる分の作成ができたことの意義は大きい。今回は職員に内容の書き足しをお願いする形をとったが、今後全職員が共通に理解し、伝えていけるように変更、改善していけたらよい。	次年度以降深まり、すびからしい保育が確立され、職員がそれを共有し、胸を張って外部に伝えられるようになることを望む。 支援プログラムの内容について、話し合う機会を持ちたかった。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	28	1	新入園児へのアセスメントとして、今年度より食事に関するアセスメントシートを作成。事前の詳細な確認や言語聴覚士との連携等も行った。	「客観的に分析」のスキルがどの職員にも身につけていくよう、研修、グループ内での勉強会等ができるといいと思う。 グループによるのかな〜という印象もあった。5領域に沿った計画書づくり、アセスメントの視点をより深めていくような研修を計画されるといいと思う。 家庭へのアセスメントが不十分であったと感じる。生活全体を見たうえで個別支援計画作成を行う必要がある。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	30		もっと児発管も定期的に、まんべんなくグループに入って子どもの様子を観察する機会をとってもよいように感じた。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	28	2	概ね「はい」と思います。すべての職員に共有されるためには、今後も検討・実践・改善が必要だと思う。	嘱託職員さんとも計画書を渡すべきか？保育中、保育後に検討と共有する時間はとっていたので、一概にはできていなかったとは言えない部分がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	23	6	新入園児のアセスメントとして、全体のアセスメントと食事に関するアセスメントシートを使用している聞き取り確認や、医療的ケア、アレルギー等ある場合は各指示書を使用し、看護師と連携した聞き取りを行っている。 また、昨年度よりJSI-R（感覚機能チェックリスト）を使用して感覚面等に関してのアセスメントも行っている。	“標準化されたツール”と言われて、決まった書式やツールが思い浮かばないので、事業所評価で職員に問うもの疑問。新入園児のみならず、在園児のアセスメントも発達の道筋をたどれるようなアセスメントツールを準備していき、外部にも発信していてもいいのかもしれない。 子どもの発達段階について、共有しやすいような目安や指標があるとよいのでは。
適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	29	1	家族支援、地域連携については、統一ではなく、個別の内容をかけることよいのではないかなと思う。	ガイドラインの存在を知らない職員も増えてきているように感じる。改訂されたこともあり、一度職員間で読み合わせてみて良い時期かと感じた。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	26	3		勤務時間帯の関係で、嘱託職員を含めたチーム全体での立案は難しい状況もあるが、日常的な会話等の中で意見をもらい反映していくなどの工夫もしていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	30		活動名だけを見ると固定されているように感じるかもしれないが、中身は月ごと週ごとの進化している。また、繰り返し保育を重ねることも子どもにとって大事なことだと思う。 多彩なプログラムで子どもを飽きさせないようにしていると思う。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	28	2	個別活動の時間を、前回の早い段階から取り組めるとよいのでは。個別での学びや経験を集団の生活や活動にいかしているかよい。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	26	4	日案を通して保育内容や役割分担について確認できる仕組みはできたと思うが、日案にのせる情報についてはまだ改善の余地があると思う。 職員配置や活動のねらいは日案（書面）で伝えることが多いが、場面にに応じて口頭でも指示出ししたり、子どもの姿や支援方法について共有する場面は多くあったように感じる。	出勤時間やバス乗車の関係で、クラス全体で話し合う機会が少なく、当日最低限の話をして活動に入ることが多い。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	23	7	どの職種の人とも意見交換できる機会は設けられていると思う。限られた時間しかないため、口頭での確認と記録での確認を行っている。	嘱託職員の勤務時間内に済むように振り返りを行っているが、時間オーバーしてしまうことがある。 職員の不在で振り返りが行えない日がある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	28	1	記録に関しては報告書の時期に見直すことが多い。 日誌は保育立案の時に、前回のあそびを振り返るために使用した。	・記録として必要な内容（計画書の内容を中心）を絞って、時間をかけすぎない工夫も必要
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	30			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	29			

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	26	2	ケースによって関係機関（医療機関、学校、保健師等）と連携して問題解決や情報共有を図っている。	保護者や相談支援専門員を通じて顔を合わせたり、状況や支援の共有をしていくが、何か問題が起きた時はスピードは欠けるな~と思う。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	25	3	併行通園にて利用する保育園との年3回の情報共有の場を作り相互理解を行った。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	27	1	就学時の引継ぎとして、直接園児の様子確認と引継ぎシート等を利用して地域の小学校、支援学校との情報共有を行った。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	20	5	自立支援協議会や研修の場等を利用して、各児発の状況や取り組み、地域支援内容等の情報共有を行っていた。	児発管だけでなく、グループに所属する職員も他事業所ともしっかり関わる機会があると、自分の支援を振り返るきっかけになるのではないかと。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	26	3	今年度は、当センター所長からの将来を見越した発達支援についての全体研修や、県外への外部研修の職員回覧等を行い、質の向上を図った。 今後の機能強化に向けて、より広く、多くの職員を対象に行われるとよい。 他児発センターへの職員研修を計画的に行いたい。スーパーバイスの受入も検討していきたい。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	23	4	参加はされていると思うが、全体にも共有していただくと、地域の実情や自分たちの役割が見えてくるようになるのではないかと。	協議会の内容を、全職員が分かる形で公表した方がよいのでは。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	24	4	イオンに行った際、地域の他の子どもと遊具や遊び場所を共有した。 交流保育後の職員終礼にて、内容や様子についての報告を行った。記録等で次につながるようになっているが、周知の仕方については今後も検討していきたい。	公共施設等の利用はあるが、地域の他のこどもとの活動の機会がないクラスもある。 交流保育の機会があったが、目的などもっと明確にしていってほしい。やってみて流れがいまいちわからないし、他のグループに散化されないのもつらい気がした。 1年を通して2回実施したグループがいるが、どのような効果、利点、不都合があったのか全体に発信してもらえると良かったと思う。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	25	1	毎週の親子保育を通してどの職員も保護者と話し、保護者の今の気持ちに寄り添うことができていると思います。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	23	5	毎週金曜日に親子保育を行う中で、保護者からの相談に応える機会を作っている。保護者に障がい理解を図るために研修の案内等も行っている。 ペアトレの基本的な座学も数回行っていけるとよい。	ペアトレはしていない。親子保育を活用し、発達の道筋やあそびの意味をお伝えする機会があっても良いと思う。保護者学習会でも良いが、日常的に保護者にフィードバックできるよう、まずは職員自身がスキルや知識を高める機会や、すびかの保育方針を確認し合う場が必要ではないかと思う。 気になる保護者さんが数名いるかなと思います。保護者の対応力を底上げしてあげられる取り組みが、今後できたらいいなと感じます。 自閉症のお子さんをもつ家庭向けに、対応についての研修の機会を設けてほしいという意見が保護者からあった。親子保育の日などにあるといいのかなと思う。
保護者への	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	27	1	保護者に対しては、入園時に運営規定や利用者負担についての説明を個別に行っている。	次年度以降はきちんとしてほしい。 まずは職員間で共有し、深めていくべき。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	29		年3回の個別面談時に、保護者の思いや意向についての聞き取りを行い、次回の児童発達支援計画書の内容にも活かしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	29			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	29		必要に応じて家庭訪問できるような仕組みがあっても良いと感じた。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	27	1	今年度、保護者支援の活動として、保護者交流会、給食体験、防災講演を実施。年度の状況に合わせ父母の会役員と話し合い決定していくことこれからも求められる	以前より働く保護者が増えているため、参加されない家庭もあるが、機会を確保していくことは継続してほしい。

説明等	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	29		保護者からの問い合わせに対して、できるだけ早急な対応を取り、状況によっては、主任、所長も参加して複数名での対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	28	1		ルクミーを活用しすびかからの情報発信をもっと積極的にしていかなければならないと思う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	29			職員それぞれが気を付けていると思うが、すびかや事業団全体でのルールの周知徹底はできていないと思う。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	29		子ども自身に分かるための使い方の工夫（実物提示と声かけを合わせる、カード、簡潔な声掛け）を行っています。保護者に対しては、1対1で確認しながら分かりやすい配慮を行いました。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	12		すびかに地域の方を招待することは難しいが、公共施設の利用はどのグループも行っている。また、宙が招待したボランティアの方々との交流の場は設けられている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	29	1	より実践的な訓練を実施していく必要がある。年ごとに委員会、すびか、おおぞらでマニュアル検討、改善を行っていると感じる。今後は、保護者も巻き込んだ訓練を実施したり、事前連絡なしのゲリラ訓練を実施して、事故や災害への対応力アップにつなげられるとさらに良いのではないかと思います。各マニュアル等のホームページでの周知も検討していきたい。	保護者にまでは周知されていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	29		避難の訓練は行っているが、救出その他の訓練は行ってない印象です。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	30		入園時に看護師と複数での確認を行い、必要に応じて医療的ケアの指示書を頂き、主治医の確認の上で対応している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	30		入園時に書類の提出をお願いしている。	半年ごとの見直し等も実施していきたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	28	1		安全計画の作成を行っているが、送迎マニュアル、不審者対応マニュアル等の周知不足もあり、確認や今後の改善を含めて検討していきたい。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	26	3	保護者に対しては、父母の会総会時や新入園児契約時を中心に、地震、津波時の連絡体制について説明している。現時点で、複数的手段で確実に連絡を取れるようにマチコミ、ルクミー両方のツールを使うよう周知している。	保護者への連絡体制が明確になっていない。保護者があまり確認しないマチコミでの発信より、日頃から見慣れているルクミーの方が良いのでは？
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	30		毎月、ヒヤリハット事例確認、事故報告内容の確認、全体への周知を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	29			研修は毎年行っているが、虐待疑い事案が発生した際の、実際の対応力にまでは、まだまだつなげられていないように感じる。委員会が中心となって検討が必要だと思う。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	27	2	座位保持椅子を使用する園児の利用方法について、身体拘束を行う場合の留意事項として、残存機能を活かせるよう、安定した着座姿勢を保持するための工夫の結果として、ベルト類を装着して身体を固定する行為は、「やむを得ない身体拘束」ではなく、その行為を行わないことがかえって虐待に該当するため留意が必要であるとの文言がある。そのため、すびかでは、座位保持椅子を使用する場面を限定（集まり時、食事中、手指を使う活動時など）して使用するよう全体で確認をしている。	